



## 農業委員会広報「もっしえの～」

### 目次

- P2 …… 農業委員会会長 年頭のごあいさつ  
表紙の紹介
- P3 …… 農業委員会総会・全員協議会を開催  
佐藤市長へ建議・要望書を提出
- P4 …… 市議会・JA・農業委員との情報交換会
- P5 …… 鳥獣被害を防ぐために
- P6 …… 加入しています 農業者年金



## 年頭のごあいさつ

鶴岡市農業委員会

会長 石塚 治己

新年あけましておめでとうございます。

本市農業委員会は平成17年の市制施行以来7期目となり、農業委員20名と農地利用最適化推進委員31名で活動しております。

市民の皆様方には本委員会の業務であります農地行政、農業振興にご理解とご協力を賜り心より感謝申し上げます。

本年の干支は60年に一度の丙午です。60年前は丙午の迷信による産み控えが起これり、出生率が25%も減つたとのことです。少子高齢化や農業人口減少が進んでいる状況においては少なからず心配されるところであります。

しかししながら、丙午の年は「力強く変化に富んだ年になる」と言われているようです。昨年は令和の米騒動に翻弄され、政局も停滞し、新たな農業政策も示されず、先行き不透明な時期が続いておりましたが、本県選出で農政通の鈴木憲和衆議院議員が農林水産大臣に就任いたしました。現場を良く知る大臣であることから、生産者、消費者米価創るために、農業委員会も農業者の皆様のご意見ご指導を賜りながら、本市の農業振興に取り組んでまいりました。

持続可能な農業・農村を創るために、農業委員会も農業者の皆様のご意見ご指導を賜りながら、本市の農業振興に取り組んでまいりました。当日はトラクター3台体制で、トラクターごとの操作方法、グランドローラリーや自動操縦といった最新機器の体験に加え、合間の時間では実習先での話や今後の経営計画などについて情報交換ができました。

SEADSは今年開校5周年を迎えました。在校生・修了生ともに、就農の形態は様々（新規、親元、雇用など）ですが、地域の担い手となっていく原石なので、地域全体で応援していきましょう。

**表紙の紹介**

**SEADS研修生の農作業機械講習**

10月30日に西郷（馬町）地区の圃場において、SEADS（農業経営者育成学校）研修生（1年生9名、2年生8名）を対象とした「農作業機械講習」を行いました。

研修生の農業機械に関する知識や操作技能の向上を目的に、昨年に続き2回目の開催となり、株南東北クボタ様、農業委員・推進委員4名が講師となり、トラクターの実践操作を行いました。トラクターの基本的な操作の手順や技術・コツ、安全面での注意事項を確認しながら、研修生一人ひとりが運転操作に挑みました。当日はトラクター3台体制で、

（荻原優太農業委員）

# 第6回 鶴岡市農業委員会 総会・全員協議会を開催しました



10月24日出羽庄内国際村において、第6回農業委員会総会が行われました。6つの要望について議題が上程され、すべて賛成多数により可決されました。

総会後に行われた全員協議会では、鶴岡市農林水産部農政課の吉田俊一主幹をお迎えし、「米を取り巻く最新の情勢について」と題してご講演をいただきました。

米価の推移や、昨今の米価高騰について考えられる要因、経営所得安定対策等について詳しく述べていただきました。現状の米価は、持続可能な価格水準とは言い難く、今後の政策を注視していく必要があると感じました。

（野村恵農業委員）

## 【総会で決議された要望】

- 新たな農業者戸別所得補償制度の創設を求める要望書【国・県・市へ】
- スマート農業を推進するためRTRK基地局設置を求める要望書【県・市へ】
- 鳥獣害対策の充実を求める要望書【市へ】
- 獣友会の負担軽減及び担い手を確保するための支援を求める要望書【市へ】
- 農地の環境整備の促進を求める要望書【市へ】
- 地域資源を活かした循環型農業の構築・事業創設により持続可能な農業の実現を求める要望書【市へ】

## 佐藤聰市長へ建議・要望書を提出



鶴岡市農業委員会では、農業者の声を行行政策に反映させていくため、国や県、市等の関係機関へ現場の声を伝える要望活動を行っています。

11月10日に農業委員会の四役（東部部会は部会長代理）が佐藤市長を訪問し、総会で決議された6つの要望を市に提出しました。

地域の農業の現状と課題、それを踏まえた要望内容の説明を行いながら、農業関係の施策等について幅広く意見交換を行いました。

# 市議会議員・管内JA・農業委員等による情報交換会を開催しました



7月23日、にこふる大会議室を会場に、市議5名、農業委員・農地利用最適化推進委員21名、JA鶴岡1名、JA庄内たがわ1名、事務局3名の計31名が参加し情報交換会を開催しました。

鈴木聰農業振興専門委員長の進行のもと、参加者が6班に分かれて情報交換を行いました。計8つのテーマから各班2つのテーマを取り上げ、①現状・課題の追求 ②解決策の提案、という流れで話し合いと発表を行いました。

私の班のテーマは、「今後期待できる園芸作物」、「中山間地域以外の条件不利地への支援」の2つでした。テーマに関する経験値が浅く、また、現状すら見えない状況でしたが、班のメンバーの話を聞くことで、新たな見解を見出すことができました。

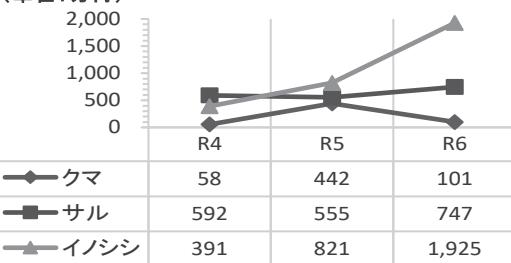
他のテーマについても、出身地域、特色、経営内容、作業内容等、個々に状況は異なりますが、現状・課題の捉え方、解決策のバリエーションの豊富さについては大変興味深く、とても参考になりました。

農業をとりまく課題は日々変化しているなか、今後もこのようない機会を重ねることで見識をさらに深め、情報共有していくことが重要であると感じました。

(原田政幸農業委員)

# 鳥獣被害を防ぐために

有害鳥獣による農作物被害額の推移  
(単位:万円)



令和7年度は各地でクマの出没が相次ぎ、田畠や農作物は甚大な被害を受けました。また、クマ以外にも、イノシシに圃場を荒らされた、サルから収穫前の農作物を食べられた、など、鳥獣被害は深刻な問題となっています。報道などで目にする機会が多いのはクマですが、鶴岡市の農作物の被害額では令和5年度以降、イノシシが最多となっています。イノシシは産子数が多いため、今後も増加が懸念されます。

## 深刻化する鳥獣被害

## 鳥獣対策 3つの柱

### ② 囲つて守る！（侵入防止対策）

対象動物に合わせた柵を設置して農地を守りましょう。

#### ③ 個体群管理

鳥獣の捕獲

#### ① 生息環境管理

放任果樹の伐採、刈り払いによる餌場・隠れ場の撲滅

#### ② 侵入防止対策

柵の設置等による被害防除

#### ① 寄せ付けない！（生息環境管理）

①と②は農業者自身が対策できること！

- ・隠れ場を無くす
- ・餌場を無くす
- ・隠れ場を無くすの周りの茂みを刈り払い、見通しを良くする。
- ・餌場を無くす 放任果樹を伐採する、農地に野菜くずなどを捨てない。

## 鳥獣には早めの対策を

### 『鳥獣には早めの対策を』

- ・電気柵：獣類全般に有効
- ・ワイヤーメッシュ柵：クマ、サル、ハクビシンを除く獣類に有効
- ・ネット柵：鳥類やハクビシンに有効
- ・トタン板：イノシシ、タヌキなどに有効

被害を受ける前に対策を立てることが重要です。多くの野生動物の餌となっているブナの状況を知ることで、その年に起こる鳥獣被害を予測できます。

被害を受けてしまった場合は、農山漁村振興課、各地域庁舎産業建設課、共済金について農業共済組合にご相談ください。

山形県HP「山形県ブナ・ナラ豊凶調査」  
毎年6月末に更新されます。



（松本典子農業委員）

清水で水稻と枝豆を栽培している佐藤敏（とし）さん。5年前に父である佐藤晃さん（現農業委員）から「誰か佐藤家の農業を継いでくれないか」との問い合わせに応え、それまで勤めていた鉄道関係の電気工事職を退職し専業農家に。  
敏さんは三人兄弟の三男で36

## 父の思いを受け、農業の道へ



# 農業者年金 加入のご検討を!!

- ① 35歳未満は1万円から加入可能 ※一定の要件あり
  - ② 認定・青申で国庫補助による手厚い支援
  - ③ 保険料控除など税制面での優遇措置



※詳細はお近くのJA各支所、  
または農業委員会・各分室まで

農業者年金加入のきっかけは父・晃さんからの勧めがあったことと、将来への備えになればとの思いから。農閑期は前職の鉄道関係にお手伝いに行くこともしばしばあるそうです。確定申告時には、農業者年金掛け金は全額保険料控除の対象になる、という事も魅力の一つだつたそうです。

## 将来への備えとして 掛け金控除も魅力

休日には高校時代から続けていたバスケットボールを友人と楽しんだり、最近は釣りも始めたとのことで、充実している様子の敏さん。取材中の質問には淡淡と冷静にかつ丁寧に受け答えをしてくれる姿はとてもたくましく見えました。

そして父・晃さんを尊重しながらも自分の考えもしつかり持ち、晃さんもまた敏さんを尊重している様子が伺えました。今後の展望はこれからじっくり考えていくとの事ですが、地域でのますますの活躍を期待しています。

**地域から信頼される  
農家に!!**

# あとがき

2025年はアツかった。夏の猛暑の流れから9月も暑さが続き、粉碎作業時の稻倉の気温も9月下旬で30℃を超える。汗だくになりながら作業をしました。ある会合で先輩と粉碎機の話になった時、「今年の粉碎殻はむけにくいとメーカーが言っていた。」とのこと。例年になくむけにくく感じていました。稻も猛暑を乗り切るため、粉碎殻を厚くして自分を守り、必死に生き抜こうとしていたのだなあと感銘を受けました。互いにがんばったなあ。

(小林博農業委員)

バックナンバー  
こちらから

鶴岡市農業委員会事務局

〒999-7696 山形県鶴岡市藤島字笹花25(鶴岡市藤島庁舎内) ☎64-5868(直) FAX.64-5846  
○鶴岡分室 35-1297 ○羽黒分室 62-2527 ○櫛引分室 57-2114 ○朝日分室 53-2117 ○温海分室 43-4616  
<http://www.city.tsuruoka.lg.jp/sanqyo/nougyouinaki/index.html> 発行/年3回(1・4・9月)